

授業番号	B2B2007210	キャンパス	稲毛キャンパス		
科目名(英語表記)	専門演習I(Junior Seminar I)				
担当教員(英語表記)	根本 敏則(Toshinori Nemoto)	履修開始学年	3	単位数	1
開講学期	2019年度 前期	開講曜日	水曜4限		

授業のねらいと到達目標 (DP,CPIにおける位置づけを含め)	経済学の観点から社会を見つめ、問題意識をもって論理的表現力を養うことをねらいとする。テキストの内容を要約し、自分の意見を整理し、それらを読みやすいレポートにまとめる能力をつけることを到達目標とする。
授業の進め方(履修条件、試験やレポートなど課題のフィードバック方法を含め)	教科書の各章に関し、レポートの作成にあたった学生は、内容の要約、自分の意見をレポートにまとめ、全員に配布できるようコピーしておくこと。 それ以外の学生は質疑、討論に参加できるよう精読しておくこと。
アクティブ・ラーニングの手法	
成績評価方法と割合	レポート発表内容、ゼミ中の発言回数。

《評価基準》

評価	判定基準
秀(S)	テキストの内容を要約し、自分の意見を整理し、それらを読みやすいレポートにまとめる能力が長けており、積極的に的確な質疑応答で参加できる。
優(A)	テキストの内容を要約し、自分の意見を整理し、それらを読みやすいレポートにまとめることができ、積極的に的確な質疑応答で参加できる。
良(B)	テキストの内容を要約し、自分の意見を整理し、それらを読みやすいレポートにまとめることができ、積極的に質疑応答に参加できる。
可(C)	テキストの内容を要約し、自分の意見を整理し、レポートにまとめることができる。
不可	テキストの内容を要約し、自分の意見を整理し、それらを読みやすいレポートができない。

授業の予習・復習(1授業に必要とする事前事後学習の内容と時間数を含め)	予習: 報告者はレポートを作成すること。(2時間) それ以外の者も精読しておくこと(1時間) 復習: ゼミで学習した内容に関連し、小レポートを課す予定。
教科書	特になし
参考文献	世界経済入門, 野口悠紀雄, 講談社, 2018

回数	授業項目	授業内容
第1回	大学における研究とは	ゼミの進め方の説明、自己紹介、個人目標設定
第2回	世界の中の日本	GDPで世界を捉える、各国を比較
第3回	貿易などを通じる国と国とのつながり(1)	世界貿易の構造、貿易収支と経営収支
第4回	貿易などを通じる国と国とのつながり(2)	海外移転や外資による買収、移民問題
第5回	自由貿易はなぜ望ましいのか(1)	比較生産費の理論、食料自給率
第6回	自由貿易はなぜ望ましいのか(2)	FTA・TTP、水平分業
第7回	為替レートと国際課税の仕組み	為替レートと購買力平価、国際金融制度の変遷、国際課税制度と問題点

第8回	新しい産業で成長するアメリカ経済(1)	アメリカ経済、フリーランサー
第9回	新しい産業で成長するアメリカ経済(2)	シリコンバレーとラストベルト、トランプ大統領の経済政策
第10回	中国経済はどこまで成長するか(1)	中国の経済成長、グローバル企業
第11回	中国経済はどこまで成長するか(2)	IT産業、対外戦略、人材
第12回	アジアNIESとASEANの経済	NIESの発展、チャイナリスク
第13回	ヨーロッパ経済とEU、ユーロ(1)	EU離脱問題、ユーロ圏と問題点
第14回	ヨーロッパ経済とEU、ユーロ(2)	ドイツ、イギリスの脱工業化
第15回	前期のまとめ	前期のゼミの総括、夏休み中の個人研究課題の設定

《教職に関する情報》		
免許状取得のための科目区分(必修/選択)		担当形態
科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等		